

たゆまぬ好奇心と向上心をもって

千葉市総合展覧会科学部門は本年度で58回を迎え、千葉県科学作品展同様、半世紀を越える歴史と伝統を誇っています。この栄えある総合展で入賞された皆さんは、日頃の努力が報われ、喜びもひとしおのことと思います。

科学論文では、身近な自然や生活の中から、疑問を見出し、粘り強く観察や実験を繰り返して結果を出し、自然のきまりを発見しているものが多く、研究への熱心な取組が伺えました。科学工夫作品では、日常生活を便利にする工夫、夢や希望が感じられるものが多く見受けられ、どれもアイデアに溢れたすばらしい作品でした。

さて、昨年のノーベル賞では、生理学・医学賞に北里大学の^{大村 智}特別荣誉教授が、物理学賞に東京大学宇宙線研究所の^{梶田 隆章}所長が受賞し、科学分野では2年連続の快挙となりました。

今回の受賞は、日本人として大変誇りに思いますが、成功に至るまでには様々な困難を克服し、研究に対するたゆまぬ努力や真摯な取組があったことを忘れてはなりません。また、こうした探究心を持続できたのは、お二人とも、人一倍の好奇心と向上心をもっていたからではないでしょうか。

皆さんも、身の回りの事物や現象から不思議や疑問を感じ、好奇心をもって今回の研究や工夫作品の製作に取り組んだことと思います。また、研究や製作を進める中で、観察や実験の方法を工夫したり、作品の完成度を高める努力をしたりするなど、向上心をもって、追究したことでしょう。

こうした姿勢は、自由研究のみならず、人生の中で、自分自身を成長させる大きな原動力となります。これからも、日々の生活を通して工夫したり追究したりする心を大切にし、自分の目標に向かって粘り強く取り組むことが、大きな成果につながります。皆さんのますますの成長を期待しています。

結びに、本作品集の編集に御協力いただいた皆様のご尽力に、心より感謝申し上げます。

平成28年3月

千葉市教育委員会学校教育部
指導課長 伊藤 裕志